

学校自慢

0歳から20歳まで —聴覚障害のある子供たちの多様なニーズに応え続ける—

県立千葉聾学校校長 ひらお 平尾 まさゆき 昌幸



1 はじめに

本校は、JR外房線鎌取駅から徒歩3分、利便性が高く、かつ緑も多く自然豊かという恵まれた環境の地にある。千葉県における唯一の県立の聴覚障害教育専門特別支援学校として昭和6年に設置され、昨年度創立90周年を迎えた。

2 0歳の赤ちゃんから専攻科の学生まで

本校には、幼稚部、小学部、中学部、高等部、支援部、寄宿部という、乳幼児期から20歳まで、様々な年齢・発達段階に対応した部門がある。

聴覚障害は、検査・健診によって超早期に診断されるケースが多く、早ければ0歳から保護者とともに本校に通い始める。この乳幼児段階からの早期支援は重要で、乳幼児教育相談専門ルーム（支援部内）から幼稚部へと、本人の教育及び保護者支援を行っている。

小学部、中学部では、小・中学校に準ずる教育課程に加えて、聴覚障害及び重複障害に対応した教育を行っている。

高等部には、普通科、産業技術科、理容科があり、理容科は専攻科も設置している。大学進学や就労等、自立と社会参加を目指した一人一人のキャリアに対応している。中でも理容科は、理容師養成施設（厚労省管轄）としての機能があり、理容所を備え、一般の方を招き施術を行っている。

支援部は、校内に設置されている「きこえとことばの相談支援センター」を拠点として、校外3ヶ所（千葉市立花園中、成田市立成田小、印西市立牧の原小）にサテライト教室も

設置し、小・中学校に在籍する児童生徒の通級指導を行っている。

聴覚障害の自立活動の指導では、ことばの指導と補聴器や人工内耳の管理を含む聴覚活用の指導が欠かせない。指導には高い専門性が必要なため、支援部内に専門担当者を置いて、校内外のニーズに対応している。

全県を学区としている本校には、寄宿舎が設置され、遠距離通学が困難な生徒に対応するとともに、異年齢集団の中で生活力を身につけるための重要な役割を果たしている。

中・高等部段階では部活動も盛んで、関東・全国レベルでの実績を数多く残してきた。

このように、本校は、一つ一つの人数や規模は決して大きくはないが、それぞれに高い専門性を必要とする様々な部門を総合して、一貫した聴覚障害教育に取り組んでいる。

3 県内全域のネットワークを次代に繋ぐ

本校は10年以上の歳月をかけて、県内100以上の機関を結ぶネットワークを構築し、県内全域での聴覚障害教育の推進に取り組んできた。さらに、県内6地域をつなぐ県立特別支援学校を拠点校としたネットワークの整備も進めている。専門性の維持・継承、人材の確保と育成、マスク着用や仕切りの設置による弊害に象徴されるコロナ禍への対応など、聴覚障害教育を取り巻く状況は課題山積であるが、学校、家庭、医療、福祉、行政など、かわるすべての人が繋がって、今後も聴覚障害のある子供たちのことばと心を育て、社会をよりよく生きぬく力の育成を目指していきたい。